



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
ツムぐ学生

第22号

2017年8月6日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.1

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

前半準備会の様子より

8月6日日曜日。台風の影響によるしめった空気が吹く蒸し暑い日でした。

その日の午後、東浦町勤労福祉会館に、約30人のSPさんが集まってくれました。夏休みわくわく算数・数学教室の「前半準備会」が開催されたからです。SPさんが、明日から始まる算数・数学教室の準備を完璧に行ってくれました。

日曜日の午後ですから、遊んだり、バイトしたり、また、休憩したりしたいと思っても、全然不思議でない中で、SPさんはどうして、この活動に、この準備会に来ようと思ってくれたのか…。そんなことを考えながら、活動の様子を見ていました。30人のSPさんのうち、多分ほとんどの方が初対面だったと思います。

最初に説明があり、昨年度の様子のDVDを見た後、作業が始まりました。手際の良さ、どんどん仕事を見つけて活動する様子…。“見事”でした。「彼らはきっと、社会人になっても、どこの職場に行っても、きっとかわいがられるだろうな…」そんな風を感じました。「こういうところに来てくれるSPさんたちは、本当にいいやつばかりだ」中村先生は、目を細めてSPさんのことをほめていました。

そうなんですよ。前回の「事前説明会(7/29)」のときもそうでしたが、こういうときにやってきて「気持ちよく準備をする姿勢」、「準備の大切さを知っていること」、さらには「子どものために何かをするということに価値を見いだしているという事実」。教職を目指す若者の本当にすばらしい姿を見ることができました。こういう場を提供できる東浦町も、すてきな自治体だと思います。これこそ、“Win-Win”の関係です。2時間ほどですべての活動が終わり、皆、笑顔で帰って行きました。

この会の途中で、東浦中学校の小堂司先生が来て、挨拶してくれました。印象的でした。「みなさんは、ぜひ、この活動を通して、子どもとの距離感を学んでください」。端的に、学生が学ぶべきことを伝えていました。小堂先生が手塩にかけて育て、教えている東浦中1年生が60名ほどお世話になることへの感謝の言葉もありました。皆にとって「よい」活動になることは間違いないでしょう。

